

平成26年度 第3回栗東市市民参画等推進委員会議事録

- 日 時 平成27年3月1日(日) 14:00~16:00
- 場 所 コミュニティセンター大宝東 大会議室
- 出席者 野村市長、新川委員長、小松委員、高宮委員、林委員、池田委員、幡委員、
吉仲委員、笠井委員、西川委員
自治振興課：井上部長、木村課長、井上課長補佐、津田主事、北村主事補

●議事記録(概要)

1. 開会

進行：木村

2. 市民憲章昭和

3. あいさつ

新川委員長、野村市長

4. 報告事項 進行：新川委員長

(1) 平成26年度実施事業の成果報告について・・・資料1

①協働事業提案制度

②栗東市市民社会貢献活動推進基金補助金(元気創造まちづくり事業)

報告者：西川審査委員長より

<成果報告会の内容について>

(委員)

協働でやることでどのような成果があったかということについて、団体にとっては、行政と一緒に活動をしているということで参加者に安心して参加いただけたという部分が非常に大きかった。情報の周知や収集の面でも効果があったという報告もいただけた。また、ほっこりまつりについては、今年度で最終年であったが、本来の目的である景観のルールづくりにいかにつながるかということを見守り続けていたが、うまくつながりそうなところまで見せていただけたので、大変良かった。演劇祭についても最終年であったが、賞を受賞され、自分達の活動を続けていくために色々な補助金や民間の助成金も取りにいきたいという意欲を見せていただいた。

市民団体活動推進コース、滋賀ものづくりネットが最終年度であるが、かなり地元の団

体との関係がよくなっていること、実行委員会形式が上手に運営できているという印象を受けた。来年度も頑張っけて続けていきますという力強いお言葉をいただいた。他の団体については、今年度の課題を活かしてまた次年度につなげていきたいということで報告をいただいた。

地域振興協議会コースについては、参加者が集まらないという共通の課題があった。作業をするだけではなく、夢のあるストーリーやこんな素晴らしい成果があるということを見せていってはどうかということ伝えた。かまどベンチで成功している地振協については、成果が上がってきているので、他の地振協の方も参考にされるといいと思う。地振協の場合は特に継続していくことが大事であるので、長い気持ちで頑張っしてほしいということ伝えた。どの団体も発表がとても上手で素晴らしかった。

(委員)

印象として、報告が上手であったと感じている。今まではもう少し見せ方で工夫すればと思うことが多かったが、今回は事前に委員が講師を務めて報告の仕方をレクチャーされたことが大きかったと思う。見せ方を意識することで自己の反省もみつかると思うので、非常に効果があったと感じる。終了年度の活動報告がどれも終了年度にふさわしい自信とこれからの展望を持って報告されていて、これからは期待できると思った。

(委員)

サポート講座を2回担当させていただいた。模擬発表をしてもらうことで、お互いの情報交換の場になった。同じ年度に元気創造まちづくり事業や協働事業提案制度を受けているということで、よい交流の場になったと思う。

(委員)

地域振興協議会コースを、市民社会貢献活動促進基金補助金の制度に取り込んだことのメリットを感じている。課題を整理したり、課題解決のための手法を考えたり、ということをもどの団体も考えられた。特に地振協の場合は役員の方がどんどん交代していくということで、弱みの部分を皆さんフォローしてやっていかれるなと感じた。

(委員)

栗東演劇祭の飛び出す演劇祭 in 治田東のワークショップに参加した。実際の参加者は4人程度であった。今日の報告会では、そのことを正直に実態を踏まえて報告されていた。2回目の葉山東での開催については、経験を踏まえて100人程度の参加者があったと報告された。賞を受賞されたということもあり、継続していくことは力になり、住民への浸透はまだまだであるが、継続していく価値はあると思う。

(委員)

地振協の代表で入らせていただいて、私の地振協では平成27年度より事業をスタートする予定をしている。地振協の事業は進めるのが難しく、自治会への加入を拒否さ

れる方もおられる。地振協への加入も自由で、休会しているところもある。しかし、災害等がおこったときには、自治会、地域が重要になってくるということで、いかにそれを住民の方に伝えていくかということこれから進めていかないといけないと思っている。役員は変わっていくので、別の組織でプロジェクトチームを組み、運営していきたいと考えている。その件についてボランティアを募っているがなかなか集まらない。これから皆さんに訴えていけば少しずつ参加者が増えると思う。役員だけに任さないで、一生涯ボランティアに関われる形で皆さんを引っ張っていきたいと思っている。助成が終わったらどうなるのかということも不安である。そこをどういう風にしていくのかを課題としている。行政とも協力しながらやっていきたい。

(委員長)

それぞれの活動を活発にやっていただけてきたという報告をいただいた。その中で課題も見えてきたということで各委員からご指摘をいただいた。そのことを参考に各事業を進めていっていただければと思う。協働事業については、件数が少ないことが気になる。また、協働事業については、うまく進めば行政の施策化をしていただかないといけない側面がある。栗東市としての本気度が問われていると考えてもいいのではないかなと思う。市民を使い捨てにするかどうかの瀬戸際と考えていただいてもいいかもしれない。それぞれの発展をどう考えていくのか重要なところであると思う。市民団体活動推進コースについては、着実に発展をし続けていただいているところもあるが、一方ではもっとももっといろんな団体がでてきてほしいという面もある。掘り起こし不足もあるかもしれない。この事業が市民の皆さんに知られているのかどうか、なんとなく敷居が高いと考えておられる市民団体の方が多いのかもしれない。地振協については、行政の主導でできた経過があるが、その中で頑張ってきていただいている、それに対してどういう風に今後応援していくのかこれはとっても大きな課題であると思っている。もう一方で無理をしすぎると疲弊してしまうので、あんばいが大事であり、じっくりと長い目で考えていく、そのための支援の仕方、積極的に頑張っていこうとしておられるところを大きく引き上げるような支援の仕方、この両面で考えていかなければならないと思う。それぞれの地域の特性を踏まえた支援の仕方というのを行政としてもしっかりプログラムを作って考えていく必要がある。

5. 意見交換

(委員長)

本市の市民参画と協働によるまちづくり推進条例行動計画（案）については、前回の委員会での意見を踏まえて、修正をしていただき、その後パブリックコメントをしていただいている。その結果も踏まえて事務局からその後の状況のご説明をいただき、その後この行動計画をどのように実行に移していくのか各委員からご意見等をいただきたい。

(1)「栗東市市民参画と協働によるまちづくり推進条例行動計画（案）」について

・・・資料2

資料説明：井上

(委員長)

ただいま行動計画(案)についてご説明をいただいた。残念ながらパブリックコメントについては、ご意見をいただけなかったとのことであったけれども、市民の方の目には一定触れていただけたかと思う。追加でいくつかご説明をいただいたようにいろいろな重点項目についてそれぞれさらに充実させようということでお話をいただいているので、各委員から今後この計画をどんな風実践していったらいいのかについてご意見をいただければと思う。

(委員)

19ページの担い手づくりの部分で、市民人材バンクの仕組みづくりというのがあるが、人材バンクをつくる主体はどこになるのか。

(事務局)

現在生涯学習課で既に進めていただいている部分も含め、生涯学習課、自治振興課、ボランティアセンターと連携しながら充実させていきたいと考えている。

(委員)

人材バンクはマッチングが難しく、情報だけでは有効に使えない可能性が大きい。口コミで広がることが多いので、文字だけの情報ではなくて、人が見えるようなしくみづくりをしていただきたい。

(事務局)

社会福祉協議会の中にボランティア市民活動センターがあり、そこでも登録ボランティアを行っており、マッチングを行っている。そことも連携しながら進めていく予定である。

(委員)

太陽グループという子育て支援の団体で活動しているが、ボランティアセンターと私たちの団体とがここ2年で課題を共有できるようになってきた。子どもを預かるときに、職員の方が私たちの活動について子どもを預けるお母さんに紹介して下さるようになった。ボランティアとしても自覚できる。お母さんとしてはボランティアの方に預かってもらっているという自覚をしつつある。課題としては、自治会の方で高齢者がすごく増えてきている。役員のなり手がいない。若い人は自治会に入りたくないということで、すごく心配している。75歳以上の方については、地域の行事に参加しなくてもよいという条件をつくろうという話がでていた。しかし自治会から外れた時に孤立してしまわないか心配している。もっと情報交換が必要であると思っている。これから高齢化に対して何をしていかないといけないか市と一緒に話し合っていきたい。

(委員)

本日、傍聴者がいないこと、パブコメの意見がなかったことについては厳しく受け止めないといけないと思う。計画については、わかりやすく丁寧に作っていただいている、工夫されている。実際に大学として栗東市と協働させていただいて、地域と行政との協働を見ていると、人事異動により担当職員が変わり、職員の熱意や経緯の把握の具合が違ってくることが、協働事業に大きく影響が出ているように感じる。そこで、全国で地域担当職員を置くという例も出てきており、そういったことも制度として考えられてはどうか。また事務局の方でそういったことを考えておられるのであれば教えていただきたい。また、行政の計画については、一般の市民は全く知らないということが多いが、市民参画と協働の計画については、一般の市民の方が知らないということではよくない。今している事業が、この行動計画のどの部分であるのかということを一一般の市民の方に一つ一つ公開していく必要があるのではないか。参画・協働すると何がかわるのが一般の市民には分かりにくいので、ストーリーを作るとわかりやすくするとよいと思う。協働するとこんな価値があるよとか、協働しなかったらこんな大変なことになるよというのを市民に訴える力のある人、市長やメディア等を通じて積極的に打ち出していく必要があるのでは。

(委員)

パブリックコメントが少ないことについて、市民は議員の方に任せている。その前の議員を選ぶことについても、投票率が少ない。それと比較してみてもコメントを出せということ自体が難しいのではないかなと思う。積極的に行動している人達の声を拾い、その声を広げていく方法を考える方がよいのではと思う。

(委員)

住民が意識を持つことは大事なことだが、住民は今まで行政の指導のもと、動いてきた。市民参画や協働ということについて市民の意識がついていってないのが現状である。仕事と家庭をしながら行政のことまで協働とするのかという市民の方もいる。しかし、災害等について、行政だけでは担っていけない部分、隣近所で助け合わなければならない部分、そういうものを皆さんにどのように伝えていくかが課題である。文字だけではなくて、人と人との会話がないと伝わらないと思うので、そういう部分を大事にして人に伝える人を見つけたい。世の中、便利になり伝える手段は様々あるが、熱意を持って話す部分を残していただきたい。地域の高齢化については、行政の方からも色々な施策を考えていただいている。まだまだ知らない人が多い。伝える役目の人を行政は掴んでいただき、その方を通じて広めることも必要ではないかなと思う。うまく人を使うことも行政の仕事であると思う。

(委員長)

市民意識を変えるのは難しいが、市民の方へ伝える市民の方を行政は掴むというお話をいただいた。大切な手がかりだと思うので、このあたりを踏まえてご検討いただければと思う。

(委員)

21ページの庁内推進体制の整備の部分で、「職員は市民参画と協働の視点を持って業務に取り組みます」この一文が非常に大事であると思う。色々な市民の声を拾い上げて施策にしたり予算化したりすることが行政の仕事であると思うので、大勢の方の意見を取り入れることも一つだが、一方で協働事業提案制度や元気創造まちづくり事業のような個々の事業の中で気づいたことを施策の中に取り入れるというような方法も協働であると思う。この一文を職員の方が市民の方と一緒に何かすればいいと思うだけではなくて、具体的な仕事にどんな風にかかしていくのかを自治振興課さんを中心に考えていただければと思う。また何か考えておられることがあればご紹介いただきたい。

(委員)

今日の報告会のほっこりまつりの回答の中で、最初は行政が主導していて、それがだんだんと自分達の領域に移動してきて今は大学とも連携しながら進めているところまでになったと報告された。これこそが協働の道筋であると思う。最初は行政が主導で重点的に力を入れていってほっこりまつりのような成功例をいくつか作っていったらどうか。

(委員)

市民に情報を伝えるときには、対象によって発信の方法を変えることが必要であると思う。パブリックコメントという制度には限界がある。他の方法とも上手に組み合わせさせて使っていくとよいと思う。例えば、計画の14ページの審議会では、委員の方は大体同じ顔ぶれになるのではないかと思う。いかに違った人を持ってくるかが大切である。公募委員は非常に大事な部分であるが、公募委員も関心があって意識がある人が手をあげるようになっていて、関心のある人を増やしていく必要があると思う。

(委員)

大学は地域連携の大きな担い手となっている。色々な大学が地域と連携をしたがっているので、市の方から積極的に大学やNPOに声をかけていかれるとよいと思う。また協働事業提案制度や元気創造まちづくり事業に応募すると事業を実施するだけではなくて、プレゼン等で人に伝えるスキルも身につくと思う。計画の進捗を図るのにアンケート調査だけではなくて、討論型世論調査のような形をとるのも一つの方法ではないかと思う。

(委員)

職員には、参画や協働について、身近なところでアンテナを張ることも必要であると思う。

(委員)

市民参画と協働によるまちづくりというのは、栗東市をどのようなまちにしたいと思

ってつくられているのかを教えてください。市民参画と協働というのは手法であって最終的に市の目指すまちはどのようなものか。

(事務局)

市民が自分たちでまちをつくっていると感じること。市民主体のまち。それぞれが役割分担をしながら足りないところを補いあってまちをつくっていかうとすること。そのことが最終的には、住みよいまちに繋がると考えている。

(委員)

自分自身も委員に入らせていただいてどんなまちにしたいのかというのを考えたときに今日のプレゼンを見て、老いも若きもみんながいきいきと暮らせるまちかなと思った。つきつめていくと、自己実現につながる。自分たちでまちの課題を解決しようと努力していくことが自己満足につながるのではないかと感じた。字ばかりではなくて、協働するとこんないいことがあるよということを絵にして伝えるといいのではないかと思う。

(委員長)

市民の皆さんにこの行動計画を見ていただくときに、委員からご指摘があったように参画とか協働で自分たちが関わって地域の問題を解決していくということで、自分自身も隣近所もどんどん暮らしやすい、安心できるまちになっていくというイメージをつくっていただくことが大事かなと思う。

(委員)

担い手がいないという報告会での内容が印象的であったが、それを解決する能力ができれば何かおこったときにやはり強いまちになると思う。学習会や研修会で学んでいくというよりは実践していくことが大事であると思う。

(委員長)

色々な手がかりを丁寧に一つ一つ積み重ねていくことになろうかと思う。協力者がいない、そのことがまさに地域の課題であり、それをどんな風に解決していったらいいのか、そこから担い手づくりがはじまると思う。計画では意識を持ってと書かれているがどういう風に進めていったらいいのか、難しいところだと思う。具体的な問題から関わっていく、解決していくことをしないと意識も行動もできない。

(委員)

計画の「市政への参画」の部分については、女性と高齢者の参画を増やしていただきたい。補助金が3年で終わりという話があったが長く続けられる仕組みも必要では。6ページの事業者の取り組みについて、社会貢献活動だけではなくて寄付金を企業から集める仕組みもあればいいなと思う。人材育成の部分で退職された方で専門的な知識や技術を持った方がたくさんおられるので、工夫してたくさん集めて名簿を作って、必要

なところに派遣できるような情報発信をしてもらえたら担い手の部分でも助かると思う。

(委員長)

寄付金のお話、退職された人材活用等の提案をいただいた。また参加にあたっては利害関係のある人が参加をするということが第一歩であるので、子育てであれば女性や子どもの参加、高齢社会問題であれば高齢者の参加がまずは基本になる、本当にそこができていくかという問いかけもあった。足元のところからしっかりかためていくということも大事かもしれない。

(事務局)

平成 26 年度の市民参画と協働の実施状況一覧について説明。

(委員)

県や市との協働が意外と少ないなという感想を持った。自然観察の森に関することも全くない。

(事務局)

職員の感覚にばらつきがあって、市民の方からみたら協働でやっていると思うことがこの一覧にあがってきていない部分もあるかもしれない。自治振興課としても積極的に職員に促していきたい。行動計画の中の「市民参画と協働の視点を持って業務に取り組む」という点については、この調査にも表れているのかなと思う。

(委員長)

各課参画や協働をどう捉えているのかということがこの調査で明らかになってきたという点がある。お互いに見ながらそれぞれの理解を深めていただく、市内で参画や協働をされていることについて各課がどのように捉えているのかを問題提起することも必要かもしれない。このあたりは自治振興課さんの仕事になるので、今後とも情報提供等努めていただければと思う。

(委員)

平成 27 年度より地振協の元気創造まちづくり事業をスタートさせるが、担当課の方も一緒に進めていただきたい。住民の方に周知して動いてもらうためには、行政もこれだけ動いてくれているというのを見せたいと思っている。住民は、行政の職員はリーダーであると思って生活している。もちろん一緒にやっていただけると答えをいただいているので、そういったことを増やしていければと思う。

(委員長)

参画と協働を対等なパートナーシップで進めていくという大原則はあるけれども、現実にそれが進んでいくためには、時には市民の皆さんがリーダーシップをとっていく、

積極的に動いていくということも必要ですが、同時に多くの分野でまだまだ行政がイニシアチブをとって市民の力をつけていくような活動も現実には必要である。今回の行動計画はまさにそのための行動計画と考えていただければと思う。5年でそこまでいくかというところではあるが、行政が働きかけて積極的に市民が動いていく、また、市民が働きかけて行政もどんどん成長していくそんな姿を双方が作っていただけるような計画になればいいかと思う。両方で自覚を持つ、そのためにもまずはそれぞれの具体的な行動を尽くしていただければと思う。

その他よろしいでしょうか。

(委員)

なし。

(委員長)

それでは、当委員会としては、栗東市市民参画と協働によるまちづくり推進条例行動計画(案)の今後の取り組みについての意見交換は以上とさせていただきます。市としてもこの計画(案)にて決定していただき、今後の行動計画の具体的な取り組みについて、各委員から提案があったような内容を含めて進めていっていただければと思う。

6. その他

委員の継続について、公募委員の募集について

7. 閉会

新川委員長